

# マリナテュール

## 標準施工要領書

2019/11 改訂版

本製品を施工する前に、  
標準施工要領書を必ずお読みください。

MYT SYSTEM

## ★配合する標準的な水の量は下表の通りです。

タイプ・施工方法	容 量	専用顔料(CWは無し)	清水(目安量)
ローラー塗りタイプ	2kg/袋	1袋(約25~50g)	約1.2~1.3kg(L)
吹付けタイプ	2kg/袋	1袋(約25~50g)	約1.0~1.2kg(L)
コテ塗りタイプ	2kg/袋	1袋(約25~50g)	約1.2~1.3kg(L)

## ★標準仕様

- ・標準施工面積：ローラー塗り・吹付：3~4 m<sup>2</sup>/kg、コテ塗り：1.5~2 m<sup>2</sup>/kg
  - ・標準塗布量：ローラー塗り・吹付/250~333g/m<sup>2</sup>、コテ塗り/500~666g/m<sup>2</sup>
  - ・標準塗り厚：ローラー塗り・吹付/0.2~0.3mm、コテ塗り/0.5~0.7mm
  - ・標準塗り回数：ローラー塗り・吹付/1回塗り又は追っかけ2回塗り、コテ塗り/1回塗り
  - ・作業可能時間：混合攪拌後1~2時間以内 ※水硬性の為、翌日以降への練り置きは不可
  - ・触指乾燥：約12~36時間 ・完全乾燥：夏場/約3~5日程度、冬場/約7~10日程度
- ※マリナチュールは内装用製品ですが、施工条件に注意いただければ浴室や外壁も施工可能です。

## ★施工可能な下地 ※吸込調整等の下地処理としてナチュラルシーラーの塗布が必要です

- ・石膏ボード、プラスター、ビニールクロス、合板、モルタル、コンクリート、既存塗り壁、塩ビなどのプラスチック、タイル、ガラス

## ★施工不可の下地

- ・金属面 ※錆止め&シーラー処理により施工可能な場合も有り

## ★施工道具

- ・コテ塗り：ステンレスコテ(厚0.3mm)、プラスチックコテ、地べら等
- ・ローラー塗り：砂骨(マスチック)ローラー(細目又は極細目)
- ・吹付：エアレス(高粘度用)等のスプレーガン、リシガン等のカップガン (口径は1mm以上)

## ★準備

- ・攪拌時の粉じん対策として、マスクやゴーグルなどの保護具を着用してください。
- ・養生テープや養生シートを用い、あらかじめ柱や床などの汚したくない箇所を養生します。
- ・ボードの継ぎ目やビス頭などの凹部・出隅部は、塗装用パテで平滑に処理してください。
- ・吸込調整としてナチュラルシーラー(又は水性シーラー)を施工面に塗布します。
- ・合板や既存壁など汚れやアクが出る可能性のある下地の場合は、アク止め処理として、ナチュラルシーラー(又は水性アク止めシーラー)を塗布して下さい。  
※下地により複数回塗って下さい。
- ・アク止め処理後、アクが出ない事を確認してからマリナチュールを施工してください。

## ★混合攪拌

### ・必ず、一度に一袋全量を混合攪拌してください。

※開封後は、空気中の水分と反応し、硬化が始まるので保存が出来ない為。

※輸送中などに、比重の違いにより袋内で成分の分散に偏りが出る為。

※投入時に、比重の違いにより成分が偏って出てしまう為。

※上記の理由により、少量や一部使用の場合、本来の製品とは成分比率が異なってしまい、本来の製品にならない為、施工不良となってしまいます。

- ・先に専用顔料と清水(所定量)を15~30秒程度混合攪拌し、その中にマリナチュールを投入し混合攪拌します。
- ・混合攪拌不良を防ぐため、高速ハンドミキサー(1000min<sup>-1</sup>以上)で5分以上攪拌し、ムラの無いように混合攪拌してください。約10分程度練り置きしてから、再度5分程度攪拌して下さい。

※攪拌不良は硬化不良となり、剥離やクラックの原因となります。

※攪拌混合に使用する容器は、必ずプラスチック製又はステンレス製をご使用ください。

## ★塗り付け作業

- ・砂骨ローラー、エアレス吹付機(高粘度用)、カップガン、ステンレスコテなどを用いて、所定の塗り厚にて塗布して下さい。
- ・コテ塗りの場合は、塗布後、表面が乾かないうちに仕上げパターン付けを行って下さい。
- ・ローラー塗りの場合は、ローラームラを無くすためにローラーを縦横に転がして、材料を平均に塗り付けてください。塗布後、材料を落としたローラーを転がし、表面を軽く抑えてください。1回塗りで仕上げる事が出来ます。  
2回塗りする場合は、下塗り後、下塗りが乾かないうちに(下塗り後10~30分程度)に、仕上げ塗りをしてください。(追っかけ2回塗りで仕上げる方法)
- ・吹付仕上げをする場合は、必ず試し吹きを行い、吹付機の圧力・吹出し量等の調整をしてから、本施工を行って下さい。但し、混合水分量は所定水量(60%)+5%までとして下さい。
- ・練った材料は、水分が蒸発しないように蓋やビニールで覆いながら、約2時間以内に使用して下さい。(夏場は1時間以内) ※水硬性の為、翌日以降への練り置きは出来ません。

## ★仕上げ後の注意事項

- ・施工後は水分が多く蒸発しますので、十分な換気をし、よく乾燥する様にして下さい。※乾燥時に多湿の状態になってしまうと、適切な硬化作用が行われず、硬化不良となり、剥離やクラックの原因となります。

## 石膏ボード（新規）に直接施工する場合（新築など）

### ★施工前の注意事項

- ・石膏ボードは、天井面は9.5mm厚以上、壁面は12.5mm厚以上を使用してください。
- ・石膏ボードが問題なく張り込まれているか確認してください。
- ・石膏ボードが10～15cm間隔でビス止め（ステンレス又は高耐食ビス）されているか確認して下さい。
- ・ビス頭の凹部やボードの継ぎ目は、施工前日までに塗装用パテで平滑に処理して下さい。
- ・開口部廻りに石膏ボードの継ぎ目がこないように注意してください。
- ・施工面以外は、汚れが付かないように養生してください。

### ★施工手順

1. 石膏ボードを固定しているビスや釘の部分を塗装用パテで平滑に処理します。
  2. 石膏ボードの継ぎ目部分のV溝部のみを塗装用パテで平滑に処理します。  
（再度上からパテ処理しますので、多少凹んでいるくらいで良いです）
  3. 2の塗装用パテが乾燥したら、その上からファイバーテープを貼り付けます。
  4. ファイバーテープは、弱粘着で剥がれ易いので、すぐにその上からパテ処理をします。  
塗装用パテをファイバーテープの上から幅15～30cm程度で、（幅は広いほど良いです）  
ファイバーテープのメッシュが隠れる程度の薄さで滑らかな坂になるような感じで塗りつけます。乾燥後、#200～400程度のサンドペーパーを掛け、滑らかにします。
  5. 部屋の出隅部は、石膏ボードの上からコーナーテープを貼付し、石膏ボードとコーナーテープに掛かるようにファイバーテープを貼付し、塗装用パテで平滑に処理します。  
パテは角より多少出っ張る程度にし、乾燥後にサンドペーパーにて整形します。
  6. 部屋の入隅部は水性ウレタンコーキング材を充填し、滑らかになる様に指等で均します。（この処理は入隅部のクラック軽減対策です）
  7. パテ処理が終了後、乾燥したら（翌日以降）、吸込調整として  
ナチュラルシーラー（又は水性シーラー）を全面に塗布して下さい。
  8. 下地処理が終了後、乾燥したら（翌日以降）、マリナチュールを塗って仕上げます。
- ※推奨コーナーテープ：（株）開伸「ストーンコーナーテープ」

## 下地が合板の場合

### ★施工手順

- 1, 石膏ボードと同様にパテ処理をしてください。
- 2, 合板はアクが出ますので、アク止め処理兼吸込調整として、  
ナチュラルシーラー(又は水性アク止めシーラー)を全面に塗布(3回塗り)してください。
- 3, 下地処理が終了後、乾燥したら(翌日以降)、マリナチュールを塗って仕上げます。

## 下地がコンクリート・モルタル・プラスターの場合

### ★施工手順

- 1, ヘアクラックや凹凸がある場合は、塗装用パテで平滑に処理してください。
- 2, 吸込調整としてナチュラルシーラー(又は水性アク止めシーラー)を全面に塗布して下さい。
- 3, 下地処理が終了後、乾燥したら(翌日以降)、マリナチュールを塗って仕上げます。

## 下地がビニールクロスの場合

### ★施工前の注意事項

- ・ ビニールクロスを剥がさずに、ビニールクロスの上から塗ることができます。
- ・ 凹凸のあるビニールクロスに塗った場合、1回塗りで仕上げるとクロスの凹凸模様が出てしまう事もありますが、コストを抑えたい場合は、1回塗りをお勧めいたします。
- ・ 凹凸模様を出したくない場合は、凹んでいる部分を埋めるように全面に薄く、塗装用パテにて平滑にパテ処理をします。

### ★施工手順

- 1, ビニールクロスの表面を中性洗剤や濡れぞうきんなどで清掃してください。
- 2, クロスの剥がれや浮きなどがある場合は、クロス糊等で貼り戻す又はクロスを切り取って塗装パテで平滑に処理してください。  
注：下地が石膏ボードの場合は、タッカー止めはしないでください。  
石膏ボードを痛める原因となりますし、石膏ボードにタッカーは止まりません。
- 3, 接着増強・吸込調整とアク止め処理としてナチュラルシーラーを全面に塗布してください。
- 4, 下地処理と養生が済みましたら、乾燥後にマリナチュールを塗布して仕上げます。
- 5, クロスの上から塗る場合、凹凸の程度に依りますが、平面(石膏ボード等)に塗る場合に比べ、3～4割程度材料が余分に掛かります。

## ビニールクロス・布クロス・紙クロスを剥がして施工する場合

### ★施工前の注意事項

- ・ビニールクロスを剥がす場合は、クロスの裏紙もなるべくきれいに剥がしてください。
- ・施工手順は下記の2種類があります。

### ★施工手順①

- 1, 汚したくない部分を養生テープや養生シートで覆ってください。
- 2, ナチュラルシーラーを3倍に薄めたもの(3倍液)を全面に塗布します。  
裏紙が浮いている個所を接着させるために、裏紙に染み込むようにたっぷり目に塗布してください。
- 3, 裏紙の剥がしムラによって発生したふくれ部分は、カッターで切り取ってから、再度、ナチュラルシーラー(3倍液)を塗布して下さい。
- 4, 裏紙の段差などの不陸を調整するために、塗装用パテで平滑にパテ処理をします。
- 5, 吸込調整として、ナチュラルシーラー(又は水性アク止めシーラー)を全面に塗布して下さい。
- 6, 下地処理後、乾燥したら(翌日以降)、マリナチュールを塗布して仕上げます。

### ★施工手順②

- 1, 塗装用パテで下地処理後、塗装下地用クロスを捨て貼りします。
- 2, 吸込調整として、ナチュラルシーラー(原液)(又は水性シーラー)を全面に塗布してください。
- 3, 乾燥後、その上からマリナチュールを塗布して仕上げます。

## 布クロス・紙クロスの上から施工する場合

### ★施工手順

- 1, 表面のほこり等を清掃します。
- 2, クロスの剥がれや浮きなどがある場合は、クロス糊等で貼り戻す又はクロスを切り取って塗装用パテで平滑に処理してください。  
注：下地が石膏ボードの場合は、タッカー止めはしないでください。  
ボードを痛める原因となりますし、石膏ボードにタッカーは止まりません。
- 3, 汚したくない部分を養生テープや養生シートで覆ってください。
- 4, ナチュラルシーラーを3倍程度に薄めて、表面に塗布します。  
吸い込みが大きいので、たっぷりめに塗ってください。※吸込み止めになります。
- 5, 乾燥後(4時間以上)にナチュラルシーラー(原液)を再度塗布します。
- 6, 下地処理後、乾燥(4時間以上)したらマリナチュールを塗布して仕上げます。

## 下地が塗り壁の場合

### ★施工前の注意事項

- ・古い塗り壁はアクが出ますので、アク止め処理が必要です。
- ・施工手順は下記の2種類があります。

### ★施工手順①

- 1, ポロポロ剥がれてこない塗り壁(仕上げ部分)なら上塗りで仕上げる事が出来ます。
- 2, 塗り壁は、アク(シミのように変色してしまう)が出たり、水分の吸い込みが大きいのでまず、ナチュラルシーラーを3倍程度に薄めて、表面に塗布します。  
吸い込みが大きいので、たっぷりめに塗ってください。※吸い込み止めになります。  
乾燥後(4時間以上)にナチュラルシーラー(原液)を再度塗布します。
- 3, 2が、乾燥したら(翌日以降)マリナチュールを塗って仕上げます。  
※アクが強い場合、ナチュラルシーラー1回塗りでは止まらない場合もありますので、乾燥後に確認して、アクが出ている場合は重ね塗り(2回塗り以上)をして下さい。

### ★施工手順②

- 1, ポロポロ剥がれる塗り壁(仕上げ部分)は、剥がしてからマリナチュールを塗る事をお勧めします。
- 2, 繊維壁(特に古い)は、剥がれやすいので、上から塗ることはあまりお勧めできません。
- 3, 塗り壁(仕上げ部分)の剥がし方は、霧吹きで水を掛けて十分に湿らせてから、金ヘラ(皮スキ)で剥がします。※塗り壁(仕上げ部分)の厚みは2~3ミリ程度なので、下地のプラスター(セメントのような部分)まで、削ってしまわないように注意してください。
- 4, 塗り壁は、アク(シミのように変色してしまう)が出たり、水分の吸い込みが大きいのでまず、ナチュラルシーラーを3倍程度に薄めて、表面に塗布します。  
吸い込みが大きいので、たっぷりめに塗ってください。※吸い込み止めになります。  
乾燥後(4時間以上)にナチュラルシーラー(原液)を再度塗布します。
- 5, 乾燥後(翌日以降)、マリナチュールを塗って仕上げてください。